

# 子育て環境日本一を目指すために

## 私の提言

### いま子育て中の皆さんに聞いてみました。

◆私が子どもの頃には土曜日課がありました。給食も食べて下校していったと思います。現在は、ゆとり教育の導入で土曜日課はありません。授業時間の縮小で学力の低下も問題視されています。今年度より教科書が改訂されて授業のカリキュラムも見直されていますが、極端に授業時間が増えた訳でもないため、きちんと学力がついているか、親としては心配です。

### 土曜日課を増やして欲しい

◆矢板市は、平均よりも学力が低いと聞いています。特に、数学や英語のレベルが低いと聞きました。子どもは一度苦手意識がついてしまうと勉強が辛くなってしまいます。本来子どもは新しく覚えることが好きはずです。楽しく学べる授業や分かりやすい授業を願っています。

◆近年、団塊の世代が定年を迎え、ベテランの先生方が退職をされています。子どもたちの教育を安心してお願いできる、やる気も指導力もある教員を採用していただきたいです。

◆また、学力面だけでなく、学校行事においてもゆとりが無くなってしまっていると思います。昔は、七夕集会や勤労感謝の集会、運動会などはもちろん学芸会など、楽しい行事がたくさんあったと思います。今では、練習時間も足りないのです、このような行事が無くなって残念です。心に残る思い出が減って、こどもゆとり教育の影響があるのでしょうか？

◆学校教育には、家庭教育だけでは経験・体験できない集団生活の基礎がたくさんあると思います。こうした教育の積み重ねは、将来子どもたちが社会に出て大変役に立つと思います。

◆私がおもっているのは、子どもたちが将来の夢や目標を持ち、努力する大切さと、人間は一人ではできないこと、友達、仲間と一緒に協力して達成できることを学んで欲しいということです。

◆学力の向上のためにも、集団生活の基礎を学ぶためにも、土曜日課を導入したり、夏休みの短縮、秋休みの廃止なども視野に入れ、授業時間や学校行事の増加をお願いしたいと思います。

(三〇代、中学生、小学生二人の母)



## 新設！放射能汚染対策課

### 市役所ってどんなことをしてるの

もともと、放射能汚染対策班として三人で除染対策を中心に行っていたが、今回、最終処分場候補地に選ばれたことで、「課を設置して専門の窓口を作ろう」という市長の発案で新設された。

十二月一日付で課長になった藤本茂さんに現在の心境やこれからの課題について聞いた。



■主な仕事は？  
白紙撤回に向けての市の窓口として、塩田・矢板市両同盟会との連携を取りながら、また、茨城県高萩市との連絡を取りながら白紙撤回を目指していくというのが基本姿勢です。

指定廃棄物最終処分場の調査選定に係わる国、県との連絡調整。同盟会など、他の団体との連絡調整。他

市町村との連絡調整。報道機関への対応。候補地選定に係わる各種相談などが主な業務内容です。従来の対策班と一緒に、現在5人の体制です。

■白紙撤回に向けての戦略の幹は？  
市長の指示で、若手職員によるプロジェクトチームが調査研究をしています。その報告をもとに、今回国が示した選定方法、評価基準の問題点を見つけていくこと。そして、候補地周辺は自然豊かな環境であることを周知し、処分場としてふさわしくないことをPRしていくことだと考えています。

■現在の心境を  
この課に異動になって会う人みんなに「大変だね」と言われます。しかしそれ以上に、塩田、矢板の各同盟会の方たちは、自分の生活を犠牲にしながら活動しています。そして、同盟会の中でも、さまざまな意見・考え方があります。まずは同盟会の皆さんの思いをくみ取りながら、行政で出来ることと出来ないことがあるので、線引きをした中でうまく連携してやっていきたいと思っています。白紙撤回という目的は同じですが、行政の立場として同盟会とやり方が違うことを理解して欲しいと思います。

■仕事を進める上で大切にしたいことは？  
私は、税務課を振り出しにさまざまな部署を経験しましたが、そのなかで、誠意を持って人と接することをモットーにしました。基本的には、人間同士の話し合うこと、そこからしか理解は生まれません。今回のことでも、市民同盟会の事務所や塩田同盟会の詰め所にはできるだけ顔を出してコミュニケーションを取ることを心がけています。

編集後記  
あけましておめでとうございます。お正月が穏やかな空に雪が舞っていました。今年、矢板の懸案事項が、市民の願いとして解決し、気持ちの良い年になることを願っています。